

## 会 議 録

### 1 会議名

令和5年度 第1回阿賀野市地域福祉計画策定委員会

### 2 開催日時

令和6年1月23日(火) 午後1時30分から午後2時35分まで

### 3 開催場所

阿賀野市役所別館 303会議室

### 4 出席者の氏名(敬称略)

・委員長:中村 満

・副委員長:渋谷 信和

・委員:井上 勉、黒崎 照子、清田 義弘、前田 美菜子、圓山 イツ子、  
涌井 優、田中 信明、皆川 謙二、山崎 善哉、吉川 麻子、  
小見 江梨子、高橋 正人

(14人中14人出席)

・事務局:阿賀野市役所民生部社会福祉課 課長補佐 五十嵐 貴幸

阿賀野市社会福祉協議会 地域福祉課 主事 丸山 弥生(計2人)

・その他:株式会社スピードリサーチ 菫澤 晶一

(地域福祉計画・地域福祉活動計画策定支援業務受託業者)

### 5 委員長の互選及び副委員長の指名について(公開)

### 6 議 題

(1) 阿賀野市地域福祉計画策定にあたって(公開)

(2) 地域福祉計画市民アンケート調査票(案)について(公開)

(3) 地域福祉計画・地域福祉活動計画策定スケジュール(案)について(公開)

(4) その他(公開)

### 7 非公開の理由

なし

### 8 傍聴者の数

0人

## 9 発言の内容

### 1 開会

○事務局：本日はお忙しい中皆様ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

定刻前ではありますが、皆様お揃いでありますので、令和5年度第1回阿賀野市地域福祉計画策定委員会を開会いたします。

開会に先立ちまして、市長から皆様方に挨拶を申し上げます。

### 2 市長あいさつ

○田中市長：大変お疲れ様です。

足もとが悪い中、第1回の阿賀野市地域福祉計画策定委員会の委員の皆さん、ご出席いただきまして大変ありがとうございます。

現在、超高齢化社会、そしてまた少子化も進んでおります。人口がこのような形で減っていく中で、高齢者、児童、そしてまた障がいをお持ちの方々など、いろんな意味で、福祉の支援をしていかなければならないと考えております。

福祉計画は平成27年3月に、最初、第1期計画を策定し、5年ごとにこの計画を更新しているところであります。

次の第3期は2年後、令和7年からの計画となります。

今、課題は非常に山積しており、皆様から忌憚のないご意見をいただきながら、計画を策定していきたいと考えております。

よろしく願いいたします。

(市長、公務のため退席)

### 3 委員自己紹介

(事務局自己紹介)

○事務局：はじめに、会議開催にあたり資料の確認をお願いいたします。

事前配付した資料は、次第と、右上に資料1と記載された委員名簿を含め、ホチキス留めした資料1から5まで、市民アンケート調査票案、現在の第2次阿賀野市地域福祉計画及び地域福祉活動計画を事前にお配りさせていただきました。

本日お配りした資料は、事前にアンケート調査票について、いただいたご意見をまとめた意見の修正案と修正後の調査票案1と案2、以上となります。

続きまして、皆様から、もうすでに面識のある方もいらっしゃるかと思いますけども、初顔合わせとなりますので、自己紹介をお願いいたします。

(委員自己紹介)

#### 4 委員の互選及び副委員長の指名

○事務局：それでは次第4の委員長及び副委員長の互選に移ります。

資料2、阿賀野市地域福祉計画策定委員会設置要綱をご覧ください。

第5条に、(委員長及び副委員長)とありまして、委員長は委員の互選により選出し、副委員長は委員のうちから指名することとなっています。次第では副委員長も互選することとしていましたが、要綱の規定に基づき、委員長選出後、委員長から指名していただくこととしたいと思います。

互選ということですので、どなたか委員長を引き受けただけの方がいらっしゃればと思いますが、いらっしゃらないようであれば、事務局から提案させていただいてもよろしいでしょうか。

長年福祉サービス事業に従事していただいて、5年前の前の地域福祉計画策定委員会の委員にもなっていて、地域福祉計画に精通していらっしゃる、社会福祉法人阿賀北総合福祉協会ゆうきの里所長の中村満様をお願いしたいのですが皆様よろしいでしょうか。

(全委員承認)

それでは、委員長を中村満委員をお願いいたします。一言ご挨拶いただき、副委員長の指名を含めてこの後の進行をお願いいたします。

○委員長：皆様のご承認をいただきまして委員長という役目を仰せつかりました中村です。よろしく申し上げます。計画策定終了までということなのでそれまで委員長という立場で会議をスムーズに進めるよう努めさせていただきたいと思います。

皆様ご協力のほどよろしくお願いします。

それでは副委員長の指名ですが、長年民生委員を務めておられまして、現在笹神地区民生委員協議会の会長を務めておられ、地域福祉に精通していらっしゃる渋谷信和様に副委員長をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

○副委員長：よりよい阿賀野市のために福祉計画の策定をやっていければ良いと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

○委員長：よろしくお願いします。

#### 5 議 題

○委員長：それでは議事に入ります。

##### (1) 阿賀野市地域福祉計画策定にあたって

議題の5番の「(1) 阿賀野市地域福祉計画策定にあたって」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局：それでは資料3「阿賀野市地域福祉計画、地域活動計画にあたって」をご覧ください。資料に沿って順次説明申し上げます。

(1)の計画策定の背景と趣旨です。

皆様ご承知の通りかと思えますけれども、阿賀野市の現状について少しばかり補足いたします。平成16年に安田町、京ヶ瀬村、水原町、笹神村の4か町村が合併し阿賀野市が誕生しました。合併当時は人口が4万8,000人を超え、世帯数が約1万3,000世帯でした。それから約20年経ちましたが、現在は自然減、社会減により人口が4万人を割り込んでおり、逆に世帯数は1万5,000世帯に届こうかというくらい増加しております。

ということで単身や高齢者のみ世帯が増加している状況です。このことにより、家族内の支え合いの力が弱まること、そして人口減により、地域内での支え合いの力が弱まること懸念されております。

それでも行政によるサービスの提供だけでは対応できないことが多々あります。様々な課題に対し、自助、互助、共助、公助の役割分担に基づく、地域の支え合いの仕組みづくりを進めていく必要があります。

(2)と(3)では、計画の位置付け等の説明となっております。

地域福祉計画は、社会福祉法第107条の規定に基づく阿賀野市の行政計画、地域福祉活動計画は、社会福祉法第109条に基づく阿賀野市社会福祉協議会の行動計画です。

計画期間は、現計画に引き続き、令和7年度から令和11年度の5年間とします。地域福祉計画については、阿賀野市における市政運営の最上位計画である阿賀野市総合計画の福祉健康分野における目標達成に資するものとします。

また、3ページに記載しているとおり、高齢者福祉、障害児者福祉、子ども・子育て支援、健康づくり、自殺対策といった福祉健康分野にかかる個別計画を包括するものとします。

この地域福祉計画策定委員会は、地域福祉計画、地域福祉活動計画を策定することを目的としております。地域福祉に必要な課題を洗い出し、目標を設定するために、皆様方からご意見を頂戴したいと考えております。

私からの説明は以上です。

○委員長：事務局からの説明が終わりましたけれども、ご質問ご意見等がありましたらご発言の方お願いしたいと思います。

○委員：気になった言い回しがありましたので、事務局にお尋ねします。

資料3の1ページ、「家族による支え合いが確実に薄くなってきている・・・」という言い回しのところですが、最後に「感」があるという記載があります。

計画の中で、挨拶で「そういう感があります」という部分には、全然違和感はないのですが、計画の本文で「そういう感じがしている」という表現は適当なのか不安な部分がありました。

今の事務局の話であれば、人口は減って、そして単身世帯等が増えているということであれば、確実に言いきっても、家族による支え合い等は「確実に薄くなってきている」と言い切っても良いのであれば、そのように記載して良いのではないのでしょうか。

ちなみに他市町村の計画はどのようになっていますか。

○事務局：まず、この資料は今回の計画の概要ということで作成しました。実際の計画の

段階では、これの裏付けの資料として、まずこれからアンケート調査を行いますし、全国の動向とか、具体的な統計数値を取得して、「感がある」というよりは、「しています」とか、「こういう状態にあります」とはっきりと記載する予定であります。他市町村もそのような記載です。

○委員：私もいろんな計画を読んできましたが「感」があるという表現があまり見受けられないので質問しました。

○事務局：この部分は主観的な記載になっていますが、客観性を持たせるところは大事な部分だと思っております。

実際のところ、高齢者世帯の割合とか高齢者率などは上昇しています。また、世帯数が非常に増えているというのは核家族化が進行しているということですので、そうなりますと地域福祉の基本である隣近所向こう3件両隣という非常に大切な部分が希薄化してくるということもあります。その部分については、市の統計、調査状況を見ながら、しっかりと全国の動向、県の動向とあわせて記載します。

○委員：よろしくをお願いします。

「きています」とか、そういった表現がよりしっくりくるのかなと思ったので、ご検討いただきたいと思います。

○委員長：ありがとうございます。

これは多分統計数値とかの裏付けが出てくれば、委員がおっしゃるように、おそらく「薄くなっています」というような形に文言変更になるかもしれませんが、それを含め、アンケート結果を踏まえてという変更になるかもしれないことでよろしいですか。

○委員：はい。いずれにしても「感がある」という表現にはならないということで良いですよ。その辺りを配慮いただければと思います。

○委員長：他にご質問ご意見等ございませんでしょうか。ないようですので次の議題に移ります。

## (2) 地域福祉計画市民アンケート調査(案)について

それでは「(2) 地域福祉計画市民アンケート調査(案)について」事務局から説明をお願いします。

○事務局：それでは5ページ、資料4をご覧ください。

地域福祉計画は今年度と来年度2か年をかけて策定しますが、今年度は策定に当たりまして、地域の福祉課題を把握するため、市民アンケート調査を行います。

調査方法ですが、満20歳以上の市民から2,000人を無作為抽出して、その方々及び自治会長281名を対象として、無記名で回答していただくこととしております。

調査票案の内容ですが、5年前は30問でしたが、今回の案は42問としております。またご意見もいただいておりますので若干増えるかもしれませんが、また今回ご審議いただきたいと思っております。

調査票の内容ですが、回答者の属性、日常生活や地域福祉における課題等については前回と同様の設問内容です。

今回追加した設問は生活困窮者への支援、再犯防止、成年後見制度に関するものです。再犯防止については、今の地域福祉計画に記載されておりません。

生活困窮者への支援、成年後見制度については、現地域福祉計画に記載されておりますが、今後ますます重要となってくる課題だと思われるので、設問を追加したものです。

また調査票に対して、事前にご意見をいただいておりますので、本日お配りした、いただいたご意見と修正案の一覧及び調査票案1をご覧くださいと思います。

長くなりますが、一覧に沿って順番に説明してまいります。

「問4 あなたの職業は何ですか」の選択肢で「1 務めている」と「3 農林水産業」を分けるのであれば、農林水産業の後に（専業）をつけたほうが良いのではないかとのご意見でした。これについては、兼業等の場合は、主なものを一つお答えくださいと記載しておりますのでこのままとさせていただきたいと思います。

「問9 地域で暮らす住民の自主的な支え合いについてどのように思いますか」というところで、「あまり必要だと思わない」「必要だと思わない」と回答した場合、その理由を答える設問があれば良いのではないかとのご意見でした。こちらについては2案作成しておりますので、後ほど改めて説明させていただきます。

「問18 ボランティア活動に参加したいと思いますか」というところで、選択肢に「参加したいが就労等のため参加できない」を追加して欲しい、「問19 今後参加したいと思うボランティア活動がありますか」についても、「災害時の支援」を追加してほしいというところで、こちらの2つについては追加したいと思います。

「問20 日頃、高齢者や障がいのある人などに対して心がけていることはありますか」の選択肢に「まちで認知症が疑われる様相の人をみかけたら、声をかけたり手助けをすること」を追加してほしいというご意見をいただいておりますが、これについては、2番の選択肢に含まれている内容だと思っておりますがこのままにさせていただきたいと思いません。

問21と問37の選択肢に「インターネット・スマートフォン・SNS」とあるところ、スマートフォンを削除したほうがよいのではないかとのご意見でした。

厳密には「インターネット・SNS」と「スマートフォン」は一緒にするべきではないものですが、選択肢に入っていた方がわかりやすいと思いき、順番を入替え、スマートフォンを最初に持ってきて「スマートフォン・インターネット・SNS」としたいと思っております。

「問24 社会福祉協議会にどのようなことを期待しますか」につきましても、細かい文言の修正とともに「災害時の支援」というのを加えたほうが良いのではないかとのご意見をいただき追加しました。

「問25 高齢者や障がいのある人、子ども、子育てをしている人などが必要な福祉サービスを受けることができるようにするために、どのようなことが必要だと思いますか」の選択肢に「ワンストップの相談窓口」を追加したいと思います。

「問27 身近な地域住民が助け合い支えためのようなことが大切だと思いますか」の選択肢に「住民各々が助け合いの必要性を理解していること」を追加したいと思います。

「問40 成年後見制度を利用することになった場合、誰に後見人になって支援してほしいですか」の選択肢の「市民後見人」に説明書きがあると良いということで、欄外に、「市民後見人とは、市区町村等が実施する養成研修を受講するなどして、成年後見人として必要な知識を得て、家庭裁判所から選任を受けた方のことを言います」と追加したいと思います。

問42につきましては、選択肢の追加と修正です。

「市が優先的に取り組む施策はどのようなことだと思いますか」というところで、「自治会単位の助け合いの仕組みづくり」を追加して、あとは、「障害者への理解を深める取り組み」というのを、「高齢者、認知症者及び障害者への理解を深める取り組み」に修正したいと思います。

さて、案1と案2を見比べていただきたいのですが、案1につきましては、この前の設問の「問9 地域で暮らす住民どうしの自主的な支え合い、助け合いについてどのように思いますか」について、「あまり必要だと思わない」「必要だと思わない」ということに対してだけ答えてもらうような設問を加えました。

対して、案2の方は、どのように答えたかにかかわらず、問10を「あなたは困りごとを抱えている近所や地域の方に対してどのように関わりますか」という質問に変えて、「そもそも困りごとを抱えているかわからない」という選択肢を加えています。

どちらが良いかこの場でご審議いただければなと思っております。

当日お配りして皆様にご審議いただくには難しいところもあるかもしれませんが、このいただいたご意見に対しての修正は以上のように作成してみました。これ以外にも、設問数が多いので、この設問をなくしてもう少しすっきりしたほうが良い、又はこの設問を加えてもらいたいとか、そういったご意見がありましたら、忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○委員長：ありがとうございました。

今事務局から調査票案と意見、それに対する修正案の説明がありました。

案が2つあり、問9-2を追加するかどうか、そこだけが違うところです。また、事前にいただいた意見について修正追加等の判断がされているわけですがけれども、意見を提出された委員の皆さん、これでよろしいかどうか、まず確認を取りたいと思います。このような対応でよろしいでしょうか。

○委員：今の案1と案2のどちらが良いかというところでしょうか。

○事務局：それも含めてご意見いただければありがたいです。

○委員：案1と案2どちらが良いかですが、案1の方です。自主的な支え合いに対して「あまり必要だとは思わない」「必要だと思わない」がなぜそう思ったのかなというところを知りたいというのが私の考えで、加えてくださいとお願いしました。

案2の方は、設問を変えることで「なぜ手助けしたくないのか」「なぜ関わりたくないのか」とまた新たな質問をしたい気持ちが私の中で生まれてきたので、私は案1の方が良いと思います。

地域の支え合いを進め、自治会単位の助け合いづくりをこれから進めていく中で、地域の助け合いの気持ちを持った人たちが多くいてくださることを願っているのですけれども、そもそも助け合いが進まない理由の中にどういった理由があるのかなっていうところを知りたくて、問9-2の設問内容にフォーカスを当ててみたいと思い、加えさせていただきました。

あと、認知症の方に対してですが、問20の「困っている人をみかけたら声をかけたり手助けをすること」についてはこの設問にみんなまとめてしまう、ここは「認知症」は追加しないっていうふうにおっしゃっていますが、認知症の方ですが、その辺で歩いている認知症の方を見た時に困っている人のように見えるかどうかというところがちょっと私はこの2番の設問の言い回しとちょっと違うのかなと思います。

道に迷っていきそうな人に対して積極的に声をかけてあげられるかどうかというところをちょっと聞きたかったなと思って、追加をお願いしたところです。

○事務局：その方を見て「認知症だ」とわかるものなののでしょうか。

○委員：ただ、困っているかどうか、困っている人かどうかというところが逆にわかるかどうか。困っていると、認知症の雰囲気の方が困っている人のように見えるかどうかということも言えるかと思います。

○副委員長：地元で一緒に暮らしている人なら、認知症だよねってわかるかもしれませんが、まちで歩いている方を見てもわからないのでは。

○委員：ただ普通に歩いているのですが、普通の方が歩いていそうにないようなところを一生懸命歩いている人を見て、「困っている人」に見えるかどうかというのはあります。

○事務局：福祉計画が全体的な計画なので、認知症にスポットを当てていいのかどうかというふう思ったところでした。

そこで、困っている人のところに、例えば「迷っている人」と追加しても良いと思いますが、認知症にスポットを当てすぎると、高齢者に偏りすぎるかなと思ったところですが、いただいた意見はほぼ付け加えさせていただいたのですが、地域福祉計画は福祉の全体的な計画だという観点で入れなかったところもあるので。

ご審議いただきたいと思いますが、一応事務局の意図としてはそんなところです。

○委員：ここで想定される「困っている人」は、例えば、白杖をお持ちの方で途中で点字ブロックがなくなってどちらに行けばいいんだろうとか、そういう人は困っていると分かると思います。

そういうことを想定しているのかなというふうに取り取れますが、高齢者の認知症の方っていうことも、この中に入れるとなれば困っている人、または迷っている人って言う括弧書きにすることもできると思います。

○委員：認知症の講習会を行うことにより、それが地域住民にどれだけ浸透しているかというところを知りたいというところがありました。

○委員：それは高齢福祉の計画のところであれば良いのかなって感じもしますが、「困っている」というのは、「迷っている」ではないですが、何となく不自然だなんて思う人



がたまにいますよね。困っているとか、迷っているとかじゃなくて、漠然となのですが、不自然な感覚、それがうまく表現できればいいのかなという感じがします。

例えば知的障がい、精神障がいの方でも、普通に歩いていたり何か作業していたりしていても、いきなり表情変わったりするときがあるのですが、それは別に困っているわけではないですが、何か直感的に感じたりするものがあるから、そういう雰囲気が表現できる記載方法があれば良いと思います。

なかなかいい言葉が浮かばないところですが。

○委員：白杖を持って右往左往して困っているっていうのは、第三者から見ても明らかに困っている人ってふうに言えると思いますが、認知症であったり、精神障がい、知的障がいがあって、自分たちが本当に何かどこ行ったらいいかわからないけどとにかく歩いているような、パニックに陥っているような目つきで歩いているような人に対して、声掛けできるかどうかっていうところをアンケートで確認したいと思います。

○委員：ちなみに、家族の方から、認知症に関する窓口への相談は結構あるものでしょうか。本人から「俺認知症だよ」なんて言う人は、あまりいないと思うし、本人が言うくらいであれば症状は大したことはないのかなと思いますが、年を重ねると物忘れはどうしても出てきます。

私の友人でなった人がいて、最初は、話をしている時は認知症だとは気づかないです。でも、5分ほどしゃべるとまた同じことを繰り返して話し始めるんですよね。それで「あれ、ちょっと変だな」と気づくことができました。

ただ認知症にかかり始めた頃は、正常な人の話し方とそう変わりないです。だから、家族が相談に来るとするのはなかなか勇気のいることだと思いますが、家族からの相談は結構あるものですか。

○委員：市役所への相談はたくさんあります。高齢福祉課への相談では認知症関係が一番多いです。

話を元に戻しますが、「困っている人に見えるかどうか」の表現をどうしますか。

○委員：先ほどの話のとおり、外見で気づくというのは非常に難しいかなという感じはします。

○委員：表現をどうするか、というところですが、様子が不自然、例えば真夏にジャンパーを着て黙々と歩いているとか、真冬にランニングで歩いているという感じ、本人は困っていないと思っていると思いますが、そのような方をどう表現するかだと思います。なかなかちょっと表現の仕方がちょっと思い浮かばないですが。

○委員：なかなか声掛けするのは勇気がいる。もしかして間違っていたらどうしよう、というところはあると思います。

○委員：自分で例えば日常生活で「あれ、何か変だ」と思った方に声をかけたり、どんな人なのだろうっていうふうに想像したときに、例えば本当に物を持つのに重くて大変そうだとか、あとやっぱ何かどこかに行きたいけれども、迷っているような人だったりとか、暑いのにずっと座り込んでいたりとか、何か気になる人を見つけたときには、どうしまし

たかとか大丈夫ですかっていうような声をかけると思います。

ただ普通に歩いている人だと声をかけるかどうかはわからないので、自分がもし声をかけたりするとしたらどんな人に声をかけるのかな、と今思いました。困っているかどうかとなるとちょっとわからないけども気になる人に声掛けするかどうか。

○委員：困っているかどうかというのは行動を見ただけではわからないことがあると思います。ただ、おかしいな、不自然だなんて思って、何か声かけた方がいいかなって直感的に思うということだとすると、例えば「声かけが必要だと思ったら、積極的に声をかける」のような表現はいかがでしょうか。

認知症の方は、本人は困っていないなくても、我々、見ている方が感じることだから、そうした場合は、見ている方が、この人に声をかけた方がいいかもしれない、ちょっとおかしいかもしれないって思ったときに、進んで声をかけられる、というような表現にした方が良いのかなって感じはします。

○委員：それもあってもいいのかもしれないですね。

この「困っている人」の他に、さっき委員長が言った、どういう表現が良いのかは別にして、そういう項目を入れてもいいのかなと思います。

5年前にはなかったことが、今では結構クローズアップされたりすると思いますので、そういう項目が一つここに盛り込まれても良いのかなと、今の議論を聞いていて感じました。

○委員：2はこのままで選択肢を一つ追加するのはいかがでしょうか。

○事務局：そのような支援が必要な人にみずから手助けすることみたいな感じですか。

○委員：声かけた方が良いのではないかと思ったとき。

○委員：様子がおかしいと思う人に声掛けをするとか、「気になる要素」だとどうでしょうか。

○委員：他市町村の状況はどんな感じですか。

○事務局：私の所感ですけども、まずこの設問のアンケート結果を計画の中でどう使っていくかってところが一番大切だと思います。

これは前回は聞いている設問だと思います。当時と比べて、能動的に自主的に何か手助けをする方がどれくらい増えているか減っているか。あとは何もしないという方、あと意識的な面ではどう変化したのかというところで、その中の行動の中身そのものよりも、福祉の考え方が浸透しているのかどうか、そこを押さえて、具体的に手助けするという方が伸び悩んでいるということであれば、次の計画の中で、もっと行政としてはそこを啓蒙していかなきゃいけない、広報していかなきゃいけない、或いは事業者さんとかにもそういったことを上手くしていただくような、何かしらの施策を考えていかなきゃいけないというように使っていくべき設問だと思います。

その中で、選択肢としては「まちで困っている人や不安そうな人」とかっていう形で良いと思います。具体的に認知症について聞くのであれば、一方、障がいの方は例えば白杖を持っている方、聴覚障害の方を見かけたら、となってしまうので、漠然と本当に

「不安そうな人」「困っている人」こういった方に対して、実際に声掛けできるかどうか、ここの指標を押さえることができれば良いと思います。

能動的ではなく、受動的な支援ということでは、障がい者用の駐車場でしょうか。この辺は皆さんの意識が上がってきているかなとか、それがまた前回と比べてどれくらい上下したか比較しつつ、下がっているところは課題ですので何とかしなきゃいけない、上がっていない部分もまた課題ですので、次の計画の中で、何かしらの方針・施策を考えていかなきゃいけないというふうに調査結果が使われていけば良いと思います。

○委員長：今の議論の中の問20については、2番の設問の文言について検討いただくような形で修正が加わる可能性があるということで、事務局の方で検討していただければよろしいかと思ひます。

話は戻りますが皆さんからいただいた意見の修正追加等の部分については、このような形で追加又は修正を行う形でアンケートを実施するという形によろしいのでしょうか。

問9-2について、案1か案2かですが、どちらがよろしいでしょうか。

○事務局：案1が良いというお話だったので、それによろしいでしょうか。

○委員長：事務局からの提案どおり、案1によろしいでしょうか。そして問20の文言は、事務局から検討いただいて、このとおりのアンケートを実施するという形によろしいでしょうか。

○事務局：皆様には改めて、こういうふうにしてよろしいですかという形じゃなくて、そのようにさせていただきましたということで報告させていただきたいと思ひますが、よろしいですか。

○委員長：設問20のところですよ。

○事務局：はい。そういう形でお願いしたいと思ひます。

○委員長：今ほど検討していただきましたアンケートについては、アンケートの案1で、繰り返しになりますが設問20のところは若干変更が変わる形ということで実施させていただきたいと思ひます。

それでは次の議題に移ります。

### (3) 地域福祉計画、地域福祉計画活動計画の策定スケジュール(案)について

○委員長：議題の「(3) 地域福祉計画、地域福祉計画活動計画の策定スケジュール(案)について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局：議題では策定スケジュールとしておりますが、委員の皆様に関連するところで、策定委員会の開催スケジュールを記載しております。策定スケジュールと併せて説明いたします。

本日第1回の委員会を開催しておりますが、委員の皆様から一応調査の実施のご了解をいただきましたので、これから調査票の印刷及び封入封緘作業を行って、今月末又は来月初めに調査票を発送したいと思ひます。

2月中に調査票を返送いただき、調査結果の集計分析を行いまして、今年度末から来年度初めに第2回の委員会を開催する予定です。

来年度、令和6年度には第3回、第4回の会議を開催し、皆様方からご意見をちょうだいしながら、計画の素案を策定したいと思います。

来年度の秋ごろをめどに計画の素案をパブリックコメントに出して、そこでの意見を計画に反映させて、最終的な計画案を令和7年1月ごろに皆様方にご審議いただければと思っております。

長丁場になりますが今後とも引き続きよろしくお願ひいたします。

事務局から以上です。

○**委員長**：策定のスケジュールについて今ほど事務局から説明がありました。これについて、皆さんからご意見質問等はございますでしょうか。

なければ、事務局の方から話がありました通り、来年の1月の計画案の策定まで、長丁場ではありますが委員の皆様のご協力をお願いします。

#### (4) その他

○**委員長**：次に、「(4) その他」ということになりますけれども、事務局の方から何かありますでしょうか。

○**事務局**：事務局からは特にありません。

○**委員長**：事務局からその他については何もないということですが、せっかくの機会ではありますので皆様お集まりになられた皆様の方から、何か情報提供や意見がありましたらお願いします。

○**委員**：さきほどの認知症に関連する話ですが、私は毎週木曜日の朝、ふれあい広場を開催しています。そこで私たちはボランティアで送迎をやっています。

いらっしゃる高齢者の方は毎週毎週同じ状態ではなく、最近ちょっと変だよねとか、車の中でのお話の中で、最近お金をなくしたとか、ちょっと家族とうまくいってないとか、そんな話がだんだん出てきたりすると、その利用者がそのうち来なくなったりすることがあります。そうなると地域包括支援センターにお願いして、デイサービスに行くようになるという話も結構ありました。

毎日家で見ている家族の方よりも、私たちみたいに1週間に1回見る方が「いつもと違う」ということがわかるのかなと思います。

包括の方もふれあい広場のところにいらっしゃいますので、連携してやっていければと思っています。高齢者のために、家族も大変だけれども、私たちは大変だってことをわかりながら少しでも手助けできればいいかなと思っています。

○**委員**：せっかく来たので私もちょっとお話をさせていただきます。

我が家も今までアンケートを市からもらったことがあります。正直言って、真面目に書いて出したことが、申し訳ないのですがなかったのです。答えにくいような内容があったり、いろんな事情で回答できなかつたりということがありました。しかし、今日出席させていただいて、調査票の文言について皆さんこれだけやっぱり一生懸命に考えて作成してくれたそのアンケートだったのだなっていうことに、まずすごく驚いたっていいですか、自分のその至らなさっていうのを反省させられました。

やっぱり皆さんがこれだけ苦勞して調査票を作成しているのであればそれを本当に行政の中に生かしていただければと思います。

いろんなアンケートは届くのですが、皆さんどんなふうにそれを思っているのか、回収率を含めて非常に気になったので発言させてもらいました。

○委員長：障がい者計画の回収率はどの位でしたか。

○事務局 6割に至らないくらいです。5年前の地域福祉計画も同じような回収率で、5割を少し超えて、一応目標は6割ぐらいを目指しておりますが、大体そんなところですよ。

○委員長：アンケートの回収率などの考え方の説明を少しお願いできますか。

○事務局 ざっくりと言いますと、統計というものは、日本全国を対象とした500サンプルで500件だけ回収されても、阿賀野市内で500件回収されても、結果の誤差はそれほど変わりません。ある程度の数が集まれば統計資料として使えますので、そういった意味で今回2,300を対象として半分の回収率で1,100となります。1,000件を超えますと、これはもう十分市の全体傾向として分析できる数になります。

ただ、年々回収率は落ちてきております。これは全国どこの自治体もそうです。どこも手を変え品を変え、場合によっては、何回も礼状兼督促状という形で出したりという形で、少しでも回収率を上げようという努力はしていますが、新潟県でもこういった住民意識調査をしたケースで5割を超えるのは結構良い方の数字で、市町村によっては回収率4割、というところもあります。

そんな状態ですので、もしお手元にアンケートが届いたよってという方が、皆さんの周りにいらっしやいましたらぜひご回答いただきたいということで、お願いをしていただければと思います。

○委員長：ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。

無ければすべての議題が終了しました。

大変スムーズで、検討すべきところはちゃんと検討できたと思います。

皆さんご協力ありがとうございました。

それでは、ここで進行は事務局にお返しします。

よろしく申し上げます。

○事務局：委員長ありがとうございました。

本日ご多忙の中ご出席いただいたにもかかわらず、ご意見いただかなかった方もいらっしやると思います。申し訳ございませんでした。

来年度以降につきましては、計画の素案を策定して、また皆様にお諮りしたいと思います。そのときには、こんな計画がいいとか、ここを直してほしいとか、色々なご意見いただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、本日の同阿賀野市地域福祉計画策定委員会は以上で終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

9 お問い合わせ先

民生部社会福祉課 TEL : 0250-62-2510 (内線 2140)

E-mail : shakaifukushi@city.agano.niigata.jp